

北宇和高校 実践的なビジネスを体験

◎高校生模擬企業グランプリ「リアビズ」



1_北宇和高校情報ビジネス部 2_泉貨紙保存会の平野邦彦会長の指導を受けて紙漉きに挑戦 3_販売する「ほんのりしませんか」落水紙、レース和紙、渋紙をそれぞれ使用した3種類

認定NPO法人金融知力普及協会が主催する高校生模擬企業グランプリ「リアビズ」に北宇和高校情報ビジネス部の1,2年生が参加しています。

リアビズとは、高校生が商品設計から製造、販売、決算書の作成などを行い、限りなくリアルなビジネスを経験することができる体験プログラム。今年で2回目の開催となるリアビズに、北宇和高校が初めて参加しました。

北宇和高校のチームは会社名を「鬼の町工房」と名付け、商品として泉貨紙などを使った照明「ほんのりしませんか」を制作。事業計画書などから実現可能性などが審査される一次審査では、全国から参加した49チームから見事最終選考に選ばれました。最終選考では、1次審査を突破した10チームが最大30万円の資金を受け取り、11月から実際にネットショッピング（※BASE）を開業して商品を販売していきます。また、「ほんのりしませんか」は北宇和高校でも販売します。利益率だけでなく、さまざまな書類の完成度やマーケティングなどを対象に審査し、優勝チームには100万円相当のオリジナルビジネス研修旅行が贈られる予定です。

社長（部長）の亀岡千乃さんは「買った人が喜んでもらえたら嬉しい。鬼北町の泉貨紙も多くの人に知ってもらいたい」と話していました。

※BASE 国内最大級の人気ショッピングサービス。

みんなで考える近永駅の未来

◎近永駅周辺賑わい創出プロジェクト



9月25日、近永公民館で近永駅周辺賑わい創出プロジェクトのワークショップが開催されました。

北宇和高校の生徒を中心に地域住民など約70人が参加。まちづくりのアドバイザーとして松山市に事務所を置く矢野青山建築設計事務所の矢野寿洋代表取締役が出席し、上洲富岡駅や熊本駅など全国の特徴ある駅舎を紹介しました。その後、平屋建て駅舎の新しいプランを基に駅舎や駅周辺の活用についてグループごとに意見を出し合い、発表していききました。

発表では「既存店舗と連携した販売所の設置」や「昔行われていた日曜市の開催」、「新しいモニュメントの設置」など、一人一人が真剣に考えたさまざまなアイデアが提案されていました。

第17回鬼北町ナイターソフトボール大会の結果について

第17回鬼北町ナイターソフトボール大会は、県内で新型コロナウイルスの感染が拡大したため、優勝決定戦は行わず、第1節優勝の「F1」、第2節優勝の「武田自販」がともに総合優勝しました。

本大会は、6月21日に開幕。16チームが参加し、鬼北総合公園で熱戦が繰り広げられていました。